

日本聖公会東北教区宣教部主催

2018年東北教区修養会 「教会って何？」 開催報告書



2018年9月16～17日 若松諸聖徒教会

主のみ名を賛美いたします。

「教会って何？」というテーマのもと開催された教区修養会に42名の方が参加してくださったこと、感謝申し上げます。

今回のテーマは、私たちにとって根源的な問いでありました。「教会は何をやる場所なのだろうか」「教会の使命は？」「ビジョンは？」というような、私たちがいつも心に覚えておかなければならない事について、じっくりと思いを分かち合う大変良い機会になったと感じています。

すでに修養会の報告として参加者の感想が教区報に掲載されました。参加された方から報告を受けた方もいらっしゃるかもしれません。宣教部では、今回の実りを東北教区の諸教会の一人でも多くの方々と共有したいと思い、「報告書」を発行することにしました。参加された方はもちろん、参加できなかった方にもご一読頂き、これからの信仰生活、そして教会形成に少しでも役立てて頂ければ幸いです。

この広い東北教区ですから一つの場所に集まることは大変です。しかし、教区にはキリストを信じる老若男女の仲間がたくさんいることを、神様は修養会の恵みとして現してくださり、わたしたちに勇気と希望を与えてくださいました。まさに2018年の宣教部活動方針「歩みだそう！！神さまを信じて あなたと共に」となったのではないかと感じ、またこの報告書を通じて皆さんともこの思いを分かち合うことができればと思います。

教区修養会は今後も計画していきたいと思っています。今回ご参加いただいた方も、参加が叶わなかった方も、次回はぜひご参加いただけるよう心より願っています。

宣教部長 司祭 越山 哲也

日 時

2018年9月16日（日）、17日（月）

場 所

若松諸聖徒教会（若松聖愛幼稚園）

テーマ

「教会って何？」

普段何気なく過ごしている教会生活の中で、何気なく使っている「教会」という言葉。その言葉の持つ意味、また改めて考えることのなかった信仰生活についてなど、「聖堂のない教会」若松諸聖徒教会を会場に一緒に考えてみませんか。

参加人数

42名（未信徒含む）

2018 東北教区 修養会

教会

って何?

in 会津若松

9月16日(日)

17日(月)

17:30 受付

18:00 開始

普段あらためて意識したり深く考えることのない「教会って何？」というテーマについて思いを分かち合い、教会(信仰)生活の豊かさについて想いを巡らすことができればと願っています。

プログラム(予定)	
1日目	2日目
開会礼拝	ワーク「教会って何？」
オリエンテーション	・グループワーク
・主旨説明	・グループシェアリング
・教会牧師から	・全体シェアリング
夕食	・まとめ
想い巡らすヒント	昼食
就寝前の祈り	聖餐式
懇親会	送迎

開催名 2018年東北教区修養会「教会って何？」

会場 若松諸聖徒教会（福島県会津若松市）

参加費 7,000円 申込締切 8月20日(月)

詳しくは、各教会に配布されている「2018年東北教区修養会ご案内」をご覧ください。皆様のご参加お待ちしております。

日本聖公会東北教区宣教部

プログラム

1日目

18:00	開会礼拝	渡部拓執事司式のもと、修養会の開会を祈る礼拝を献げました。
		
18:15	オリエンテーション ・趣旨説明 ・教会牧師から	⇒P.5へ
19:00	夕食	バルナバカレーと若松諸聖徒教会信徒の方々から差し入れの漬物やサラダをいただきました。
		
20:15	思い巡らせるヒント	⇒P.6へ
20:45	就寝前の祈り	長谷川清純司祭の司式で1日の終わり、新しい明日を迎えるために祈りました。
		

2日目

9:00	ワークショップ 「教会って何？」 進め方の説明	⇒P.7へ
9:30	グループシェアリング	⇒P.8へ
11:30	全体シェアリング	
12:30	昼食	容器に会津塗が施され、内容も地元のものがいっぱいの駅弁「会津蔵出弁当」をいただきました。
		
13:30	閉会礼拝	⇒P.13へ



趣旨説明

宣教部長越山哲也司祭より、2018年修養会の趣旨が話されました。

今回の修養会を若松諸聖徒教会で開催した理由、現在聖堂がない教会で「教会って何？」というテーマで考えるということの意味等、思いを語られました。



教会牧師から

若松諸聖徒教会牧師八木正言司祭から、教会の現状や聖堂建築へ向けた教会での話し合いの様子などをお聞きしました。

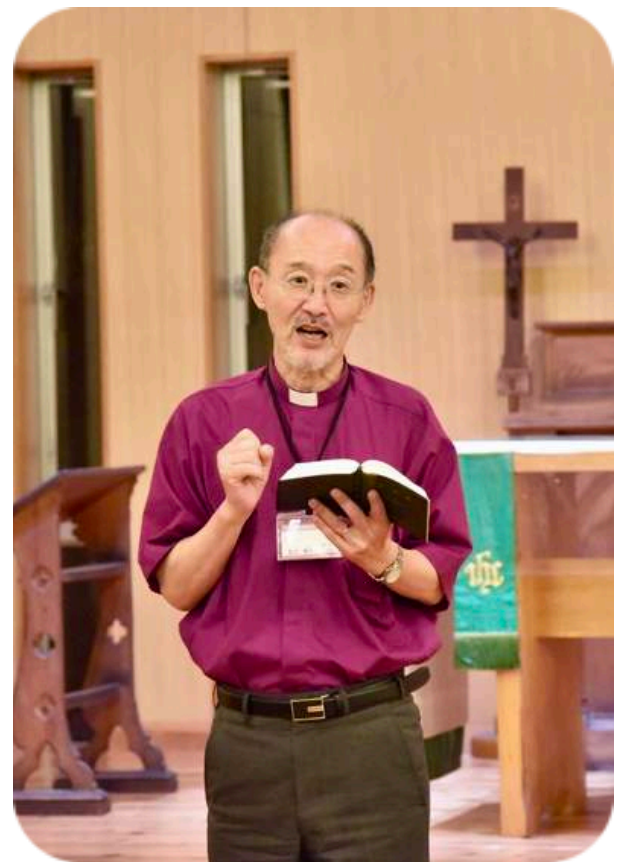
また教会というのはこういった場所なのか八木司祭の思いとともに、聖公会の歴史や礼拝の中で使われている言葉の語源などをパワーポイントを用いてわかりやすくプレゼンテーションしていただきました。



思い巡らせるヒント

「思い巡らせるヒント」と題して、2日目に行うワークショップへの心の向け方を、吉田雅人主教よりお話しいただきました。

オリエンテーションでの越山司祭、八木司祭の話や、祈祷書の教会問答についても交えつつ、教会や信仰について、それぞれどのように考えているか言葉にできるように、次の日のワークショップまで準備しておきましょうという宿題が出されました。



ワーク「教会って何？」

主教より発題

前日の「思い巡らせるヒント」を振り返りながら、「教会って何？」という漠然としたテーマを考える上で、どのように進めたらいいのか、どのように共有するのかをお話しいただきました。ひとりひとりにそれぞれの教会像があり、自由に考えてよいこともお話されました。

グループワーク・シェアリング

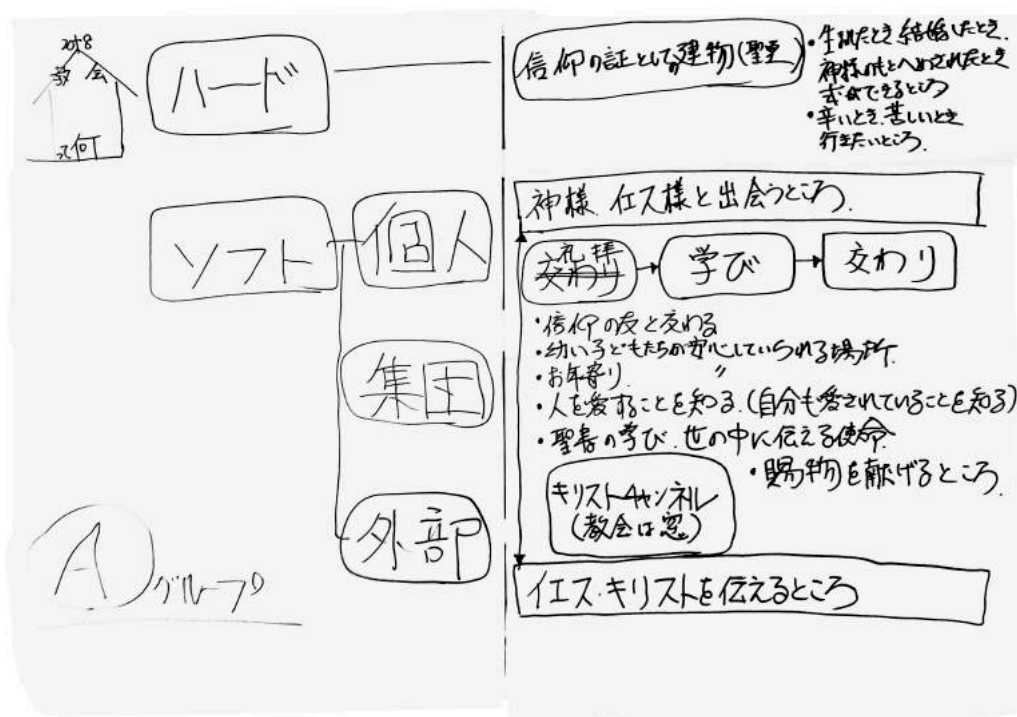
グループワークでは5つのグループに分かれて、ひとりひとり「教会」という言葉から思いつくこと（ワード）を紙に書き出し、グループ内で分かち合いました。似通ったワードをグループ分けし、そのワードに対するそれぞれの出た意見をもとに、グループごと全体シェアリングへ向けてまとめ作業に入りました。

地域や年齢、環境など様々な境遇から集まった参加者が、普段の教会生活の垣根を超えて、改めて「教会」が持つもの、あるべき姿を分かち合い、恵みを得ることができた時間となりました。



Aグループ

(秋田眞知子・越山哲也司祭・菅野覚・滝口浩美・竹石和己・福士恵美・渡部知恵子)



教会は建物が前
提にあるのではな
く、キリストを信
じる共同体である
という事を念頭に
置きながら、それ
で、建物の存在も
教会の存在も大
事であると思い、「
教会って何？」に
ついてハード面と
ソフト面で考えて
みた。

ハード面…
聖堂は建物が先
にあるのではなく、
私たちの信仰の証
しとして聖堂が必
須であるというこ
と。

ソフト面…
3つのキーワード
で考えてみた(個
人、集団、外部)。
「個人」というキ
ーワードでは、神
さま、イエス様と
礼拝、聖書の学び
そして交わりを通
して出会う場であ
るということ。「集

団」というキーワードでは、交わりの場(幼い子供たちやお年寄りなどが安心して
いられる場)であり、それらの場と交わりを通して自分は愛されている存在である、
必要とされていることを知り、人を愛するという行動へと導かれていく。そして教
会に集う群れは主によって養われ、世の中に遣わされていく。教会はキリストの愛
を伝える務めがある。

キリストチャンネル…

「教会の窓」という表現があり、現代社会は情報過多社会でありとあらゆる情報は
氾濫し、私たちはその情報の中で生きている。そして疲れ果ててしまっている。そ
のような現代社会の中でキリストの愛に基づく生き方や関係性を教会は世の中に伝
えていく使命を持っている。例えば、一般の旅行会社を通して沖縄旅行に行くと、
リゾート地を巡る旅となることが多いと思うが、教会という窓口が提供する沖縄の
旅はそうではなく、沖縄の現実と歴史に立った現場を巡る旅となる。



Bグループ

（赤坂典子・浅原和裕・木村若子・鈴木実・中村久美子・西重明・長谷川清純司祭）

発表前にまとめた模造紙を見ていたら、教会と「人生」についてメンバーの体験談が話題に上がった。「教会は人生を共にする場」「家族以外の誕生から死ぬまでの一生と関わり、繋がっていることは他にはない」「教会に通うことでクリスチャンホームに生まれた答えを見つけていきたい」といった話や、「子どもは教会を離れてしまう時期があり、そんな時親としてどうするべきなのか」といった疑問も分かち合った。

＜発表＞

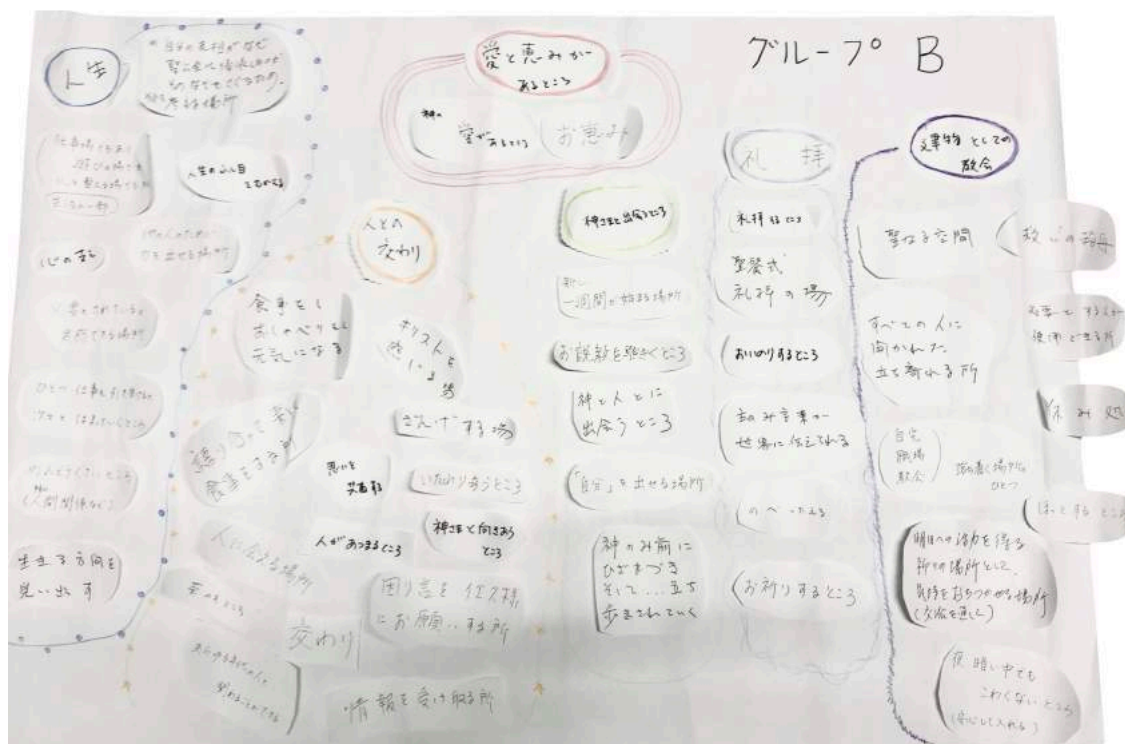
教会で思いつくことをキーワードごとにカテゴリー分けし、そのままの意見を伝えたいので、書いた紙を模造紙に貼り付ける形にまとめた。

声を大にして言いたいのは「教会は愛と恵みのあるところ」ということ。

教会は心の支えであり、その人の人生そのもの。また教会はたくさんの人との交わりのある場所。おしゃべりしたりご飯を食べたり、情報を交換する所であったり、拠り所である。

また神様と出会う場所でもある。出会い、礼拝で神様の言葉を聞き、自分のものにし、外に発信する。

心が集まり、
人が集まる場所
であるが、空間
としてなければ
そもそも難しい
ので、空間とし
てもとても大切
であると考えた。



Cグループ

(赤坂有司・赤谷契子・栗城円・小林みどり・坂水かよ・林裕登・渡部拓執事)

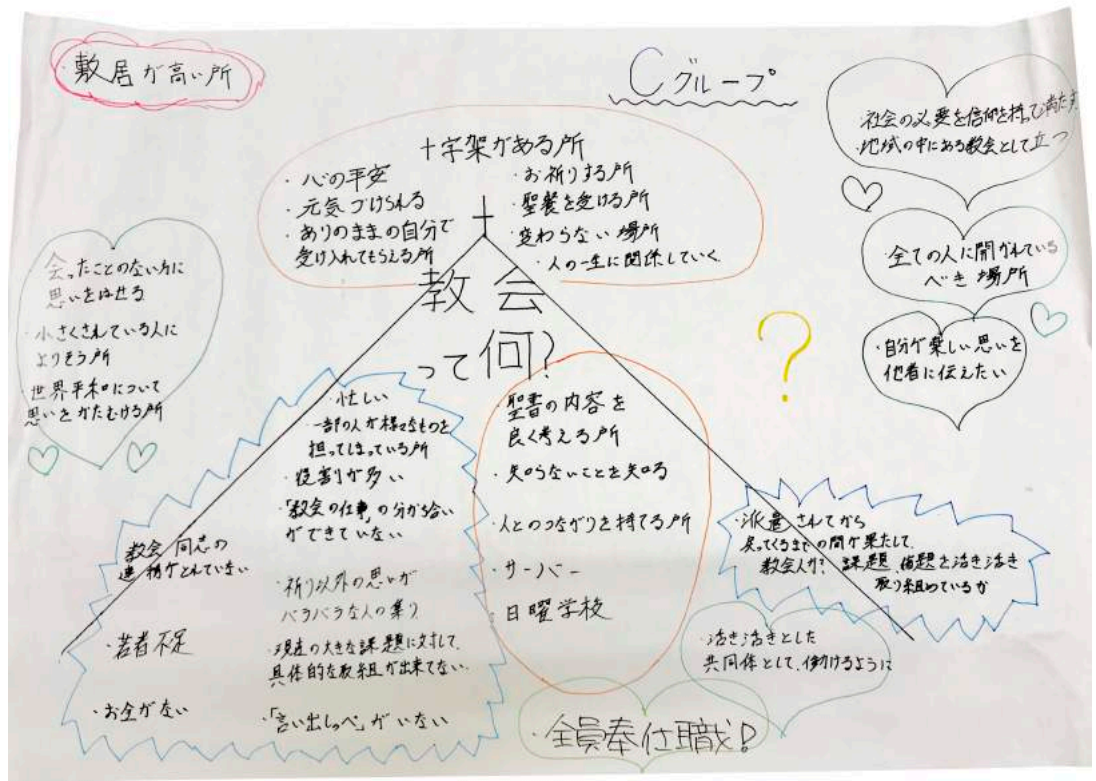
教会の中の課題や機能について考え、また教会の外との関わりや展望について考えた。

教会は元気をもらえ、知らなかったことを知れ、人との繋がりがりや自分の役割を得られる場所。しかしその中で役割を与えられすぎている、仕事を分かち合えていないなどの課題もある。

また様々な思いがあるもののうまく取り組めていない。特に「言い出しっぺ」がいないため、動かない。若者が不足しており、後継者がいない。またお金もない。

教会同士の交わりがない、一週間のうち、社会の中で信徒として信仰を大事にしているのか、礼拝の中で受けたものを真摯に受け止めているのかといった課題もある。

社会の必要を満たす存在でありたい。全ての人に開かれた場所にしたいといった理想がある。そこに向けて司祭、信徒（自分を平信徒と思っている人も）全員が取り組んでいく必要がある。皆で取り組めば最終的には敷居が高いという課題が取り除かれていくのではないかと考える。



ワーク「教会って何？」

〇グループ

(赤坂聖矢・小貫晃義・滝口光一・竹石由美子・中村みどり・八木正言司祭・涌井則子)

家族だったら嫌な事があっても離れないだろう、喧嘩や面倒くさいことがあっても家族だったら大丈夫だろうという思いから、今回のワーク、シェアリングの結論を「教会は家」とし、それぞれ出た意見を家の中（部屋）に例えてみた。

家なので出発点、また帰ってくるところである玄関がある。またこの家には屋根はあるが壁はなく、出入り自由である。神様という屋根の下にあるのが教会という家である。

家の中には一番大きい部屋としてピットがある。ここは成長や心新たに出発できる教会の役割が当てはまる。また様々なイベントがある点をリラクゼーションルームと位置付けた。ここは内部に向けたものとしての部屋と、外部に向けたものとしてのバルコニーをおいた。養われる場としてダイニングキッチンもある。感謝賛美の部屋には礼拝や祈り、歌がある。教会の中に「いろいろな要素」と「礼拝」があるとすると教会＝礼拝する場になってしまうので、教会は家族が生活する場、その中の一つに礼拝や祈りもあるんだという思いを込めた。また全部屋を繋ぐ廊下は「面倒くさいロード」と名付けた。面倒臭さは何かを行うにあたって必ず付随してくるが、それでも離れないことの大切な部分ではないかと思いそのようにした。

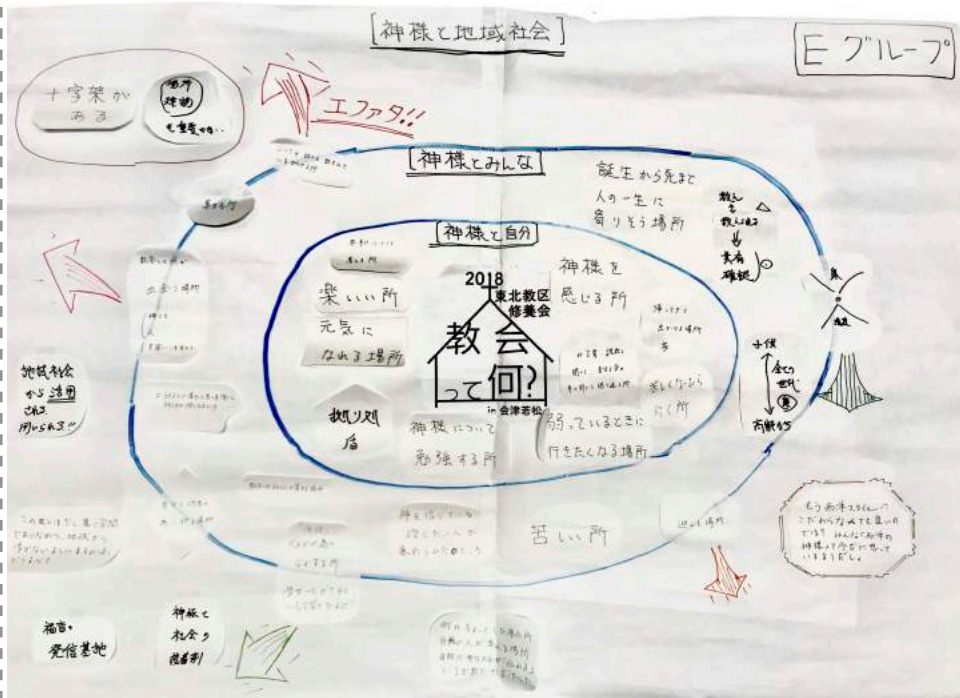
〈グループシェアリング〉

「非日常な場」というキーワードが出て、日常と表裏一体であり、非日常があるからこそ日常がより豊かに感じるという話しが持たれた。また「家」の中でも非日常は当然あるという結論が出た。



Eグループ

(越山香菜子・福士正明・武藤照子・柳沼芳裕・涌井康福司祭・若生伸子)



「教会って何？」を真ん中に据えて、円が中心から外に広がるようにし、それぞれが考えた「教会って何？」を貼り付けていった。

一番内側は「神様と自分」とし、神様と自分との関係、また神様から勉強することなどを入れた。

2つ目は「神様とみんな」とし、人との関わりに関する部分を入れた。

最後に周りの部分として「神様と地域社会」と

した。一番外側のこの部分は、他の2つと比べて出てくる案がとても少なかった。これは「閉じられた」ということを表現していると考えても間違いではないのかもしれない。しかし、2番目の項目が外にもはみだしているところがあるので、完全に閉じられたわけではないのかもしれない。

今後「神様と地域社会」の部分がたくさん埋まるようになれば、教会は元気になると気づいた。またそれに付随して、場所や建物、空間という部分もやはり必要なものだと気づいた。「十字架」がシンボルとしてあるべきだと思う。



閉会礼拝

司式を吉田主教、説教を越山司祭のもと、閉会礼拝として聖餐式をお献げしました。



収支計算書

収入	金額	支出	金額
参加費 7,000円×19名 6,000円×2名 2,000円×4名 1,000円×5名	158,000	ホテル代	149,770
		夕食代	7,600
		昼食代	42,000
参加費(子ども) 6,500円×1名 300円×2名	7,100	宣教部交通費	75,916
		宣教部前泊費	5,000
参加費(宣教部) 4,000円×7名	28,000	雑費	7,424
教区仮払い金 主教参加費 7,000円 宣教部参加費21,000円 宣教部前泊費 5,000円 宣教部交通費85,360円	118,360		
		支出計	287,710
		教区仮払い金返金	23,750
合計	311,460	合計	311,460

献金報告

17日閉会礼拝信施34,200円と懇親会の会費残金9,987円の計44,187円を、若松諸聖徒教会と若松聖愛幼稚園の働きのために献げました。



The Diocese of TOHOKU Missions Department